

# すべての事業の基盤となる安全とサービス —安全—

## 基本的な考え方

“安全はあるものではなく、つくりあげていくもの”との不変の理念のもと、従業員一人ひとりが「安全の綱領」に示す「安全は、私たちの最大の使命である」という基本的な考え方をもとに安全性向上に取り組んでいます。

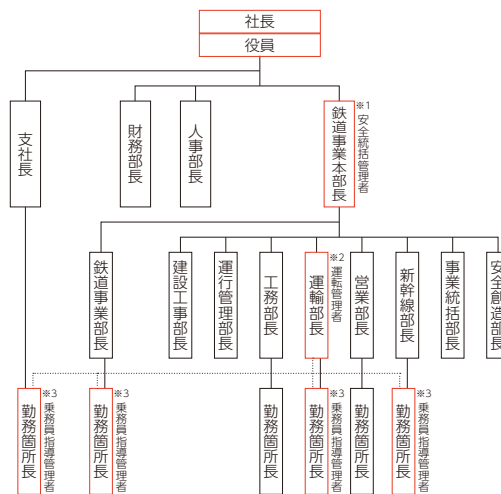
### 安全の綱領

安全は、私たちの最大の使命である。

- 一、安全の確保は、規程の遵守及びサービスの厳正に始まり、たゆまぬ努力で築きあげられる。
- 一、確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
- 一、安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
- 一、判断に迷ったときは、最も安全と考えた行動をとらなければならない。

## 安全管理体制

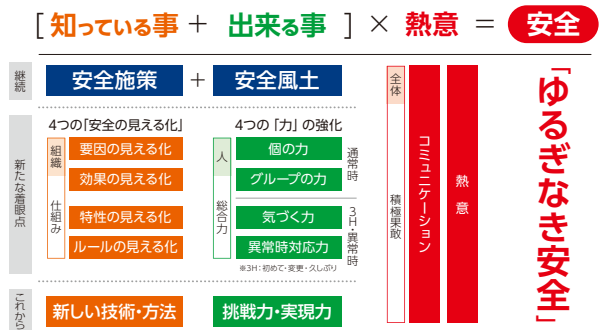
経営トップの主体的関与のもとに安全統括管理者、運転管理者等を中心とする安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しています。安全基本方針の策定、安全に関する取り組みの展開、安全監査及び安全点検等による取り組みの有効性の確認、改善のPDCAサイクルを良好に機能させ、輸送の安全の確保及び自然災害対応能力の向上に努めます。



|                         |                                                                                                                                                   |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営トップ(社長)               | <ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。</li> <li>安全統括管理者がその職務を行ううえでの意見を尊重するとともに、必要により措置を講じる。</li> </ul>                    |
| ※1 安全統括管理者<br>(鉄道事業本部長) | <ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。</li> <li>安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。</li> </ul>            |
| ※2 運転管理者<br>(運輸部長)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用乗務員の育成及び資質の維持等を行う。</li> <li>運転に関する業務について、関係部長等から必要な報告を求め、指示を行う。</li> </ul> |
| ※3 乗務員指導管理者             | <ul style="list-style-type: none"> <li>所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運転管理者へ報告する。</li> </ul>                                                                 |

## 安全をつくる仕組み

当社グループは、「ゆるぎなき安全」の実現のための3カ年計画である「安全中期計画2023-2025」に取り組んでいます。本計画では、安全をつくる仕組みとして「安全をつくるのは知識や技術だけではない。熱意が『ゼロ』なら安全は『ゼロ』、熱意が2倍なら安全は2倍!」という考え方を表す「安全の方程式」を設定しています。また、新たな着眼点である4つの「安全の見える化」と4つの「力」の強化を中心とした、取り組みを展開し「ゆるぎなき安全」の実現に挑みます。



## 目標の設定

「ゆるぎなき安全」の実現の具体的な「考え方」と「目標」について、【お客さま及び社員等の命・怪我】につながる事故を根絶することを頂点とし、以下のような考え方に基づいて各目標を設定しています。

|                    |                       |          |                   |     |
|--------------------|-----------------------|----------|-------------------|-----|
| 命<br>怪我            | お客さまの死傷事故             |          | 根絶する<br>期間を通じ0件   |     |
|                    | 従業員等の死亡災害             |          |                   |     |
|                    | 三大労災(触車、感電(高圧)、墜落)    |          |                   |     |
|                    | 鉄道運転事故(当社グループ責任)      |          |                   |     |
| 危険な<br>事故・事象       | インシデント                |          | 撲滅を目指す<br>0件／年の達成 |     |
|                    | 指導を要する事象(危険なもの)       |          |                   |     |
|                    |                       | 信号違反     |                   |     |
|                    | (再掲)                  | ドア扱い違反   |                   |     |
| ご迷惑をおかけする<br>事故・事象 |                       | 触車事故防止違反 |                   |     |
|                    | 鉄道運転事故<br>※当社グループ責任除く | 踏切障害事故   | 最終年度の<br>到達目標     | 10件 |
|                    |                       | 鉄道人身障害事故 |                   | 10件 |
|                    | 故障<br>(輸送障害)          | 車両故障     |                   | 15件 |
|                    |                       | 線路故障     |                   | 0件  |
|                    |                       | 送電故障     |                   | 0件  |
|                    |                       | 保安装置故障   |                   | 0件  |
|                    | 指導を要する事象(迷惑をかけるもの)    |          |                   | 5件  |

## すべての事業の基盤となる安全とサービス —安全—

## 安全推進委員会

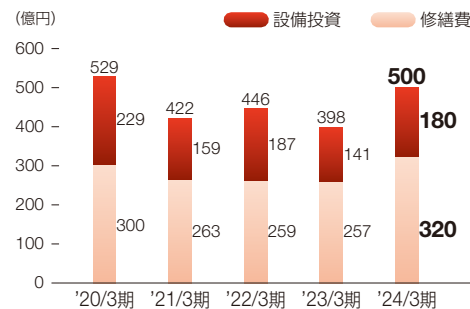
鉄道運転事故や輸送障害及び労働災害等の未然防止や再発防止に関する対策の審議や、安全に関する情報の共有を目的として、社長執行役員を委員長とする「全社安全推進委員会」を毎月開催しています。ここで決議された対策や情報等については、各部門ごとに開催される安全推進委員会や撮影した議事動画により展開されます。また、決議された対策や安全に関する情報はグループ会社内でも展開され、当社グループ一体となって安全の確保に取り組んでいます。

## 鉄道における安全の状況報告と管理体制の強化

鉄道事業における運転事故、輸送障害及び労働災害等の発生状況については、四半期ごとに取締役会において報告し、安全に関する取り組みや再発防止策が適切であるか確認するとともに会議での意見等を取り組みに反映させることで当社グループの安全管理体制の強化に取り組んでいます。

## 安全に関わる設備投資等

安全に関する支出については、毎年計画的に実施しています。2023年度は、老朽設備の取替え、保安・防災対策、安定輸送対策、車両関係などへの投資として180億円、鉄道設備や車両などの維持管理のための修繕費として320億円、合計500億円を支出しました。



## ● 主な安全投資件名

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 老朽設備取替  | ・電車線路設備取替<br>・信号設備取替           |
| 保安・防災対策 | ・日田彦山線BRT復旧<br>・新幹線新八代以南防災対策工事 |
| 安定輸送対策  | ・線区改善対策、木まくらぎTPC化              |
| 車両関係    | ・811系リニューアル、新幹線予備輪軸購入          |

## 目標達成に向けた取り組み

## 総力をあげた「ゆるぎなき安全」への挑戦

## 最重点項目

信号違反・ドア扱い違反・  
触車事故防止違反への取り組み

- 安全をつくる仕組みのさらなる充実
- 安全を支える社員等の総合力向上
- 鉄道運転事故等の未然防止
- 激変する環境への柔軟で強靱な対応
- 車両・設備の故障防止

## 新技術等によるさらなる安全への挑戦



AIやセンサー使用による  
自動分析・自動検出



映像解析やドローン活用  
による省力化・高精度化



システムによる  
状態監視とCBM



アプリを活用した  
支援装置開発の推進

## 取り組みの新たな着眼点

安全の方程式

知っている事  
+  
出来る事

×

熱意

||

安全

## 4つの「安全の見える化」

## 要因の見える化

- 原因・背後要因等の分析手法導入
- 潜在リスクの傾向把握・対策

## 効果の見える化

- 対策効果の数値化
- 対策効果を評価する仕組み

## 特性の見える化

- 個人や職場特性の定量的評価

## ルールの見える化

- 事務連絡等の規程・マニュアル化
- ルールの棚卸と適正化

## 4つの「力」の強化

## 個の力

- 特性に合わせた教育と判断力醸成
- 危険性を認知する体験・共感型教育

## グループの力

- 関係機関との合同教育・訓練
- 訓練や勉強会情報の水平展開

## 気づく力

- 指標の変化管理による潜在リスク把握
- 身体機能や変化に気づく、気づかせるコミュニケーション

## 異常時対応力

- タイムライン・マニュアル整備
- 3現\*に主眼をおいた教育訓練

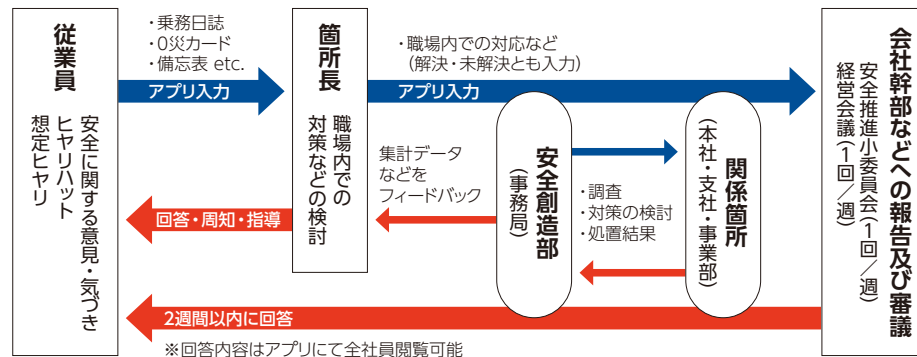
※3現：現場・現物・現実

## すべての事業の基盤となる安全とサービス —安全—

## 「安全に関する社員の声」

「安全に関する社員の声」は、従業員の安全に関する「意見や気づき」及び「ヒヤリハット体験」、「想定ヒヤリハット」を共有し、事故や危険の芽を未然に防止するためのシステムです。内容と対策を2週間以内に経営会議で報告及び審議され、その情報は社内ネットワークにより全従業員に開示しています。

## 「安全に関する社員の声」のフロー



## 「安全に関する社員の声」による改善事例

2024年3月期に寄せられた12,835件の意見・気づきやヒヤリハット体験のうち、対策が必要な声は311件あり、こちらについて対策の実施または対策の実施方針を決定しました。

## 改善事例

## 声の内容

長崎駅の柵内ホーム端の立ち入り禁止エリアを越えて写真撮影をされるお客さまにヒヤリとした。



## 対策

長崎駅に注意喚起シートを貼付け、ポールを設置し注意喚起を行うことで安全を確保しました。



## 安全を支える人材の育成

## 安全創造館

安全創造館は、2011年1月に開設し、理念である「過去の事故等の教訓を風化させず、基本動作や安全対策の意味を理解し、お客さまや社員の安全のために行動できる社員の育成」を実現するため、取り上げる事故や研修テーマを変えながら研修を行っています。

現在「ルールの重要性を“理解”するとともに、自らルールを守るために為すべきことを考え、それを“実践”できる力を養う」ことを目的とした6巡目研修を実施しています。

2021年3月には、社員研修センター建替えに伴い、新たな安全創造館を開設しました。新たな安全創造館では、模擬踏切、模擬ホーム、模擬トンネル、模擬車両及び労働災害を学ぶ設備を追加し、実際に体感、体験することができる設備の充実を図りました。

安全創造館開設以来、2024年3月期末までに延べ63,489名(グループ会社従業員を含む)が受講しました。



リニューアルした安全創造館



経営陣が受講の様子(6巡目研修)

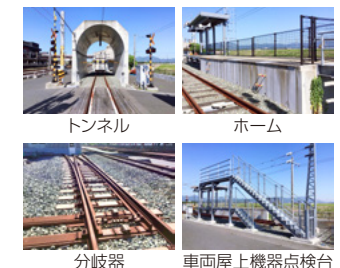
## 教育用の実習線

知識・技能及び異常時対応力を向上させる3現に主眼を置いた教育・訓練実施のため、社員研修センター及び東小倉に実習線を設置しています。社員研修センター講師やグループ会社の専門講師が教鞭をとることで、より実践に即した教育に努めています。



## 遠賀川施設実習センター

グループ会社も含めた施設関係社員の検査・作業技術の向上を図る目的で、「遠賀川施設実習センター」を九鉄工業(株)と共同で設立しました。同施設では、実物大のトンネル・ホーム・分岐器・車両屋上機器点検台等による実習を行っています。



分岐器

車両屋上機器点検台



## 地震・津波への対応訓練

### 大規模地震想定訓練

2005年3月20日に発生した「福岡県西方沖地震」を教訓に、大規模地震が発生した際、お客さまの避難誘導や情報伝達の迅速化等を目的とした訓練を毎年実施しています。2023年9月に実施した訓練では大規模地震発生直後、発生日翌日など状況を変えながら対策本部と関係箇所間での情報収集や復旧計画の取りまとめ等、状況に応じた想定訓練を行いました。



本社対策本部



博多指令



介助訓練(長崎支社)



救護訓練(熊本支社)



支社対策会議(大分支社)



支社対策会議(鹿児島支社)

### 大津波避難誘導訓練

大分地区及び宮崎地区では、南海トラフ地震を含め津波警報発令時における迅速な避難・誘導と防災・減災対策の推進を図る取り組みとして、地域の方々と警察・消防機関、関係自治体と合同で、避難誘導訓練を実施しています。



避難階段を活用した避難



スロープを使用した避難



架線復旧作業



クレーンによる列車の載線



踏切復旧作業



軌道復旧作業

### 総合脱線復旧訓練

2023年10月に小倉総合車両センターにおいて、本社直轄管内では36回目となる総合脱線復旧訓練を実施しました。訓練では列車が踏切内で乗用車と衝突、脱線、衝突の影響で架線の断線及び火災が発生した想定のもと、各系統が協力して警察、消防と連携した消火訓練やお客さまの救済救護、車両及び各種鉄道設備の復旧作業を行い、異常時対応力の向上を図りました。

## すべての事業の基盤となる安全とサービス —安全—

## 激変する環境への柔軟で強靱な対応

線路沿線の斜面については、集中豪雨・台風に対する防災強度の向上や経年劣化による落石・崩落等を防止するため、在来線では、2024年3月期は17箇所の斜面对策工事を実施しました。



対策工事前



対策工事後

## 安全に関する表彰制度

「安全創造運動」や「安全に関する社員の声」をはじめとする安全への取り組みを積極的に行い、年間を通して事故等の未然防止や安全・安定輸送の確保に大きく貢献した職場と従業員を表彰する各種制度を設けています。

表彰制度を通じて、従業員のやる気や自主性を引き出すことにより、自ら安全をつくりだす人材育成に努めています。



## 安全創造大賞 — 職場の部 — (長崎工務所佐世保工務室)

臨時列車情報を把握するためのシステムにおいて、一部内容が未反映であることに気づき、これによりシステムが改修され、線路内での作業員の触車事故防止につながりました。

## 受賞職場のコメント

私たちの職場では、二つのことを意識して取り組みました。一つ目は、全社員が「絶対に事故は起こさない」という、高い意識と熱意を持って業務に取り組むことです。常に意識と熱意を高く保つことで、漫然と業務を行ってはい気づかない小さな危険に気づく力が養われています。二つ目は、気づいた危険な内容を「安全に関する社員の声」に登録し共有することです。「声」に登録することで、自箇所だけでなく、JR九州全体に内容が共有されJR九州全体の安全性の向上につながると考えています。

## 多機能検測車の導入

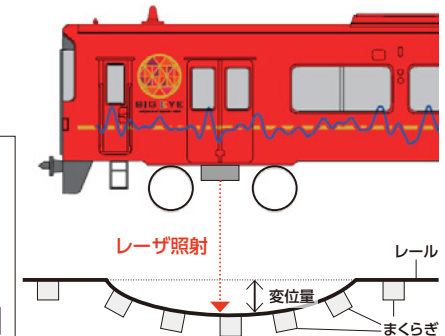
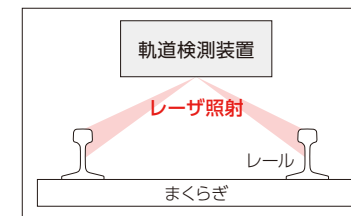
老朽化した高速軌道検測車(マヤ車)に変わる新たな多機能検測車「BIG EYE」により、高頻度かつ高精度なデータ測定が可能となります。これにより、これまで係員が実施してきた目視による線路点検や検査業務を抜本的に見直し、より安全で効果的な設備修繕を目指します。



## 1 軌道検測装置

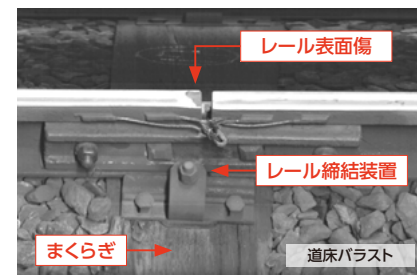
レールにレーザを照射し、線路のゆがみを測定

<前方からの視点>



## 2 部材検査支援カメラ装置

9台のラインセンサカメラにてレール表面の傷や各種部材を高精度に撮影



## 3 建築限界測定装置

3次元点群データにて、線路に対するホームやトンネル、電柱等との距離を測定

